

「ハイブリッド・エコ・ハートQ住宅の科学」③ 水分・湿度・空気線図・環境編

23・24pの紹介

史幸工務店では、左写真の「ハイブリッド・エコ・ハートQ」③水分・湿度・空気線図・環境編の他、住宅に関連する環境について、4分冊の小冊子を発行しております。住宅建築は、単に住宅を建てればよいというわけではなく、断熱性能などさまざまな数値によって性能管理が行われています。住宅の性能には、明確な基準があり、素材の採用や施工方法にも明確な根拠があります。それを項目毎にまとめたのが上記の小冊子です。これから順次、抜粋してご紹介致しますが、本冊子に興味のある方は、電話・インターネット等でお申し込み頂ければ差し上げます。

今、住宅の高性能化が緊急に求められる訳。

「ローマ・クラブ」が予測した人類の危機「成長の限界」が始まっている。

◎生態系を乱す人間の活動は、ブーメラン効果で人類存亡の危機を招く。

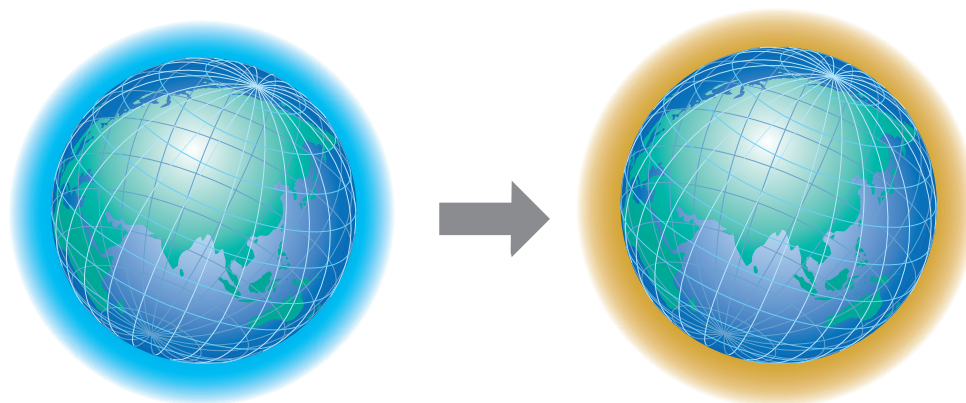
18世紀後半に始まった産業革命以来、200年余を経過した地球は0.8℃の平均気温の上昇とCO2を40%も増大させ、温暖化による気候変動を引き起こし、大気汚染や干ばつによる食料・飲料水の不足は宗教・民族対立に転化し、地域紛争による難民の大量発生で世界中が混乱しています。ヨーロッパでは「2020年問題」として早くから準備され、ドイツやスペインの再生可能エネルギーへの転換や、イギリスでは新築のZEH（ゼロ・エネ・ハウス）が義務化されるなど、住宅性能の基準強化が着々と進められてきました。周回遅れの我が国は2020年から「省エネルギー基準」の義務化が始まります。心配されるのは、現在建築されている現状の「省エネルギー基準」で建てられている住宅の扱いです。耐震基準変更の時のように、新たな「省エネルギー基準」が制定された後は、断熱性能の「既存不適格」住宅で片付けられるのではないのでしょうか？新たな「省エネルギー基準」は、少なくとも現状基準の倍近くの性能になるはずですが、ご計画なら、是非、弊社にご相談下さい。

●産業革命以前の大気イメージ

図.19

●現代の大気イメージ

図.20



◎2020年問題とは、ローマ賢人会議が予測した「成長の限界」？

2020年問題は、1970年に世界の英知を集めてローマで開催された、ローマ・クラブ（ローマ賢人会議）の論文「成長の限界」を源にしています。「このまま人口が増え続けた場合、食料と水の枯渇で人類は100年後に滅亡の危機を迎えるだろう」と言うショッキングな提言から始まっています。

その分岐点になるのが、ローマ・クラブから50年後の2020年頃という予測で、人口は予測通りに増え続け、アフリカでは今年もまた各地で大干ばつが起こり、多くの国々が政変による無政府状態になっています。ソマリアの海賊問題が世界的な問題となっていました。これもまた、食えないから海賊行為を行わざるを得ないという現実があり、アフリカには第2、第3のソマリア予備軍が生まれています。IS(イスラム国)の支配以来、大量の難民を出しているシリアでは、未だに戦闘が続いています。

人口問題に拍車をかけるように、地球温暖化による環境問題が大量の難民の発生を促し、難民の流入を防ぐ為、EUからイギリスが離脱するなど、さらなる悲劇を助長しているのです。

人口増加、食糧難、土壌汚染、河川汚染、飲料水枯渇、これが地球の現状。

◎ローマ・クラブは、何を警告したかったのか？

「ローマ・クラブ」の提言では、2020年をピークに食料・工業生産・資源が急落的に不足して行き、伸び続けるのは人口と汚染物質だけです。人口の上昇は2050年まで続き、その後は急落的に減少しますが、これは食糧難から急激に人口が減ることを意味しており、2020年からの人口減少(飢餓状態)をどの様に回避していくのか、ということも環境に係わる2020年問題の一環です。

1993年にはEU(欧州連合)が発足、現在では経済関係のみが強調されていますが、ヨーロッパのエコロジー保全もまた、有力な欧州連合の動機でした。すでに2000年頃から「ジャーマニー2020」・「EU2020」が組織されて、積極的に環境問題に取り組み、太陽光発電等のクリーンエネルギーの開発を大幅に増やし、京都議定書の締約では、基準年(1999年)の20%以上というCO₂削減を実現しています。ヨーロッパの人々は日本やアメリカと共に、環境汚染の洗礼を受け苦しむ経験をしています。毎年のように続くアフリカの大干ばつや民族紛争による難民の流入など、「ローマ・クラブ」が予告したシナリオが確実に、進行している現実を身にしみて実感しているのです。

●ローマ会議(1970)の未来予想図

表.8

